| 科目名 | | 担当教員 | |
|---|---|---|---|
| 公衆衛生学 | | 渡部　芳彦 | |
| 科目コード | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| DF3110 | 4 | R | ２年以上 |
| 生成 AI 利用レベル | レポート　：　B | 試験　：　C | |

※2024 年度入学者までが履修登録できる科目です。

## 科目の概要

**■科目の内容**

人が健康に生きることを考えるときに、その人を含む集団や地域、その生活環境に配慮する必要が生じます。本講義では、保健衛生の歴史的変遷、疫学の発展とその成果、現在の科学・医療技術や保健・医療・福祉制度の理解を通じて、健康を巨視的に捉える方法と、健康を共有する方法を幅広く学び、学士レベルの教養と保健・医療・福祉関連の職種に携わる上で求められる専門知識の習得を目指します。

**■到達目標**

１）疫学の専門用語を理解し、それに基づいて社会現象を正しく理解することができる。
２）環境が人々の健康に及ぼす影響を理解することができる。
３）社会の諸制度について、その成立過程や今後の課題を理解することができる。
４）公衆衛生の観点で、個人、集団、地域、世界の病気の予防や健康増進に貢献できる素養を身につける。

**■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連**

とくに「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

**■科目評価基準**

レポート評価 70%＋科目修了試験 30%

**■教科書・参考図書**

**【教科書】**

松浦賢長ほか編『コンパクト公衆衛生学（第７版）』朝倉書店

**（最近の教科書変更時期）**2024 年４月

**【参考図書】**

『国民衛生の動向』一般財団法人厚生労働統計協会（できるだけ最新版）

## レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|---|---|---|---|
| 1 | 公衆衛生の課題、人口問題と出生・死亡<br>（第１・２章） | 公衆衛生の歴史、公衆衛生学的課題の変遷、人口問題、人口政策、リプロダクティブヘルスなどについて学びます。<br><br>キーワード：ジョン・スノウ、日本国憲法第 25 条、生活習慣病、社会経済的要因、人口爆発、リプロダクティブ・ライツ／ヘルス、人口ピラミッド、合計特殊出生率、年齢調整死亡率、平均余命、少子高齢化 | 公衆衛生の課題は時代と共に変遷しますが、この学問とそれに基づく実践は、たくさんの人の健康と命を守るために重要です。私たちは、個人レベルにおいても、不確かな情報に惑わされず、データを正しく理解する必要があります。<br>世界の人口増加と、日本の人口減少が当面続くと推計されています。その結果として、これからさらに、どのような問題が顕在化するかを考えてみてください。 |
| 2 | 疫学的方法による健康の理解<br>（第３章） | 疫学に関連する用語や各種指標の算出方法などを理解します。その上で、疫学研究の種類と方法を学びます。<br><br>キーワード：罹患率、有病率、致命率、オッズ比、記述疫学、分析疫学、症例対照研究、コホート研究、介入研究、偶然誤差、系統誤差、因果関係、EBM、スクリーニング | 「疫」とは、流行病のことです。流行状況を正しく分析するための手法を理解しましょう。主観的・直感的な判断は、時に正しい場合もありますが、情報社会においては、客観的な指標や経験知を総合して、地域や個人に合った対策を行うエビデンスベースの考え方が重要となります。 |
| 3 | 日常生活環境と健康<br>（第４章） | 大気の組成や性質、生活環境が健康に及ぼす影響や対策を考えます。また、水の衛生的利用、廃棄物処理とリサイクルの仕組みを学びます。<br><br>キーワード：大気組成、音、振動、気圧、放射線、電磁波、温熱環境、上水、浄水、水質基準、下水、廃棄物処理、循環型社会 | 環境を良好に保つことは、健康に生きる上で欠かせません。空気や水の性質とその利用方法を理解するとともに、環境を良好に保つための仕組みを考えてみてください。そして、環境保護において、個人レベルで取り組むべきこと考えてみてください。 |
| 4 | 環境汚染と公害<br>（第５章） | 環境汚染の問題と公害対策を考えます。特に、グローバルな課題として、先進国が率先して取り組む必要性があることを考えます。<br><br>キーワード： 環境汚染、公害の定義と特徴、公害事件、公害防止対策、地球環境、環境保全、SDGs | 公害で多くの人たちが苦しんだ歴史があります。そして、特に開発途上国においては、現代においてもそのような問題が繰り返されていたり、新たな問題が生じたりしています。地球環境を守るための国際的なルールや仕組みに私たちがどのように参画すべきか、考えてみてください。 |
| 5 | 栄養と健康<br>（第６章） | 食と健康の関係について学びます。性別や年代に合った食事摂取の目安、運動や休養との関連、食の安全などについての理解を深めます。<br><br>キーワード：食事摂取基準、推定エネルギー必要量、国民健康・栄養調査、食事バランスガイド、ポジティブリスト制度、ゲノム編集食品、HACCP、食品表示 | 健康を維持する上で、食事は大切な要素です。自分自身はもとより、子どもやお年寄りの食生活をサポートするための方法を考えてみてください。また、食による健康被害の問題を考え、その問題を防ぐ対策としての制度や取り組みを理解してください。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 | 感染症とその予防<br>（第７章） | 感染症の定義、原因などとともに、感染症対策の制度や対策について学びます。また、院内感染や性感染症、新興・再興感染症などについても理解を深めます。<br><br>キーワード：感染症法、病原体、感染経路、感受性宿主、予防接種、院内感染、AIDS、STD、インフルエンザ、COVID-19 | ジョン・スノウ（第１章）が、当時、まだ病原菌が特定されていなかったコレラの流行抑止に成功したのは、疫学的手法で感染経路を推定して対策を行ったことによります。多様な感染症の病因やそれぞれの病原菌の特性を理解して、平時においても対策を行うことが、自分や大切な人を守ることにつながります。 |
| 7 | 社会経済要因と健康、健康教育・行動変容<br>（第８・９章） | 健康格差の現状を理解し、対策を考えます。また、健康や予防の概念を踏まえ、行動科学に基づくアプローチについて学びます。<br><br>キーワード： 健康格差、ジニ係数、ソーシャルキャピタル、ヘルスリテラシー、プライマリ・ヘルス・ケア、医の倫理、予防の概念、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、行動変容、ステージモデル | 社会経済的要因の理解に基づき、個人の努力を促す対策ではなく、格差をなくすための社会的アプローチが必要であることが明らかになっています。個人が健康であるためには、「社会が良好であること」も重要であり、その視点で対策を考えてみましょう。<br>また、行動科学的に健康を実現するためのアプローチがあります。ご自身の経験などと照らし合わせて、課題や改善策を考えてみてください。 |
| 8 | 母子保健<br>（第 10 章） | 母子保健の制度と取り組みについて学びます。対象となる人たちの課題を鑑み、今後の対策を考察するために、過去の歴史的な母子保健政策の展開も含めて学びます。<br><br>キーワード：妊産婦死亡、周産期死亡、 乳幼児死亡、健やか親子 21、妊産婦検診、乳幼児健診、不妊症・不育症、SIDS、家族計画 | 日本においては、妊産婦死亡率、周産期死亡率などが劇的に改善した歴史があります。例えば、そのような取り組みの一つとして行われてきた「母子手帳」は海外でも紹介され、導入しているところがあります。一方で、新たな課題となっている少子化対策へのアプローチも理解し、改善を考えてみましょう。 |
| 9 | 学校保健<br>（第 11 章） | 学校保健の意義と歴史を学び、現在の制度や取り組みを理解します。<br><br>キーワード：学校保健安全法、健康教育、保健教育、保健管理、学校環境衛生、学校安全 | 児童・生徒（・職員）の健康を守る組織的管理体制の確立とともに、保健教育や学校環境など、配慮すべきことは多くあります。皆さんの年代によって、その経験が異なっている可能性があるので、現代の学校保健の課題や安全対策などについて、その変遷も含めて理解を深めてください。 |
| 10 | 労働と健康<br>（第 12 章） | 労働者の社会集団に対する保健制度を学び、その課題となる健康問題とその対策を理解します。<br><br>キーワード：労働基準法、労働安全衛生法、特殊健康診断、過重労働、メンタルヘルス対策、ストレスチェック制度、THP | 長く労働に従事する上で、まず、職場で安全や健康を維持する仕組みを作ることが大切です。制度や対策を理解して、労働に起因する疾病や死亡を防ぐための取り組みを、それぞれの職場に合ったよりよい形として、実践できるようにしてください。特にメンタルヘルスは、近年の労働衛生の重要課題です。 |
| 11 | 精神保健福祉<br>（第 13 章） | 精神保健福祉の歴史的な変遷と、現在の課題や取り組みについて理解を深めます。また、精神障害者の社会復帰や自殺予防対策、発達障害者の支援、依存症対策、災害時の精神保健福祉などについて学びます。<br><br>キーワード： 精神障害、精神保健福祉法、医療保護入院、措置入院、障害者総合支援 | 精神疾患を予防したり、早期に発見したりすること、精神障害がある人の社会生活を支援することが求められます。この分野のアプローチは時代と共に大きく変遷しました。皆さんが当事者と関わることや、当事者となり得ることも意識して、どのような社会的支援が必要で、また、どのような |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 法、自殺率、ゲートキーパー、発達障害、依存症、トラウマ、PTSD | 社会であることが望ましいかを考えてみてください。 |
| 12 | 成人保健・生活習慣病、高齢者保健・在宅ケア（第 14・15 章） | 成人保健における対策の変遷や、国民健康づくり対策などについて学びます。また、高齢者保健の成立背景を踏まえて、各種制度・政策の理解を深めます。さらに、高齢者の医療と在宅ケア、終末期ケアなどについて学びます。<br><br>キーワード：生活習慣病、健康日本 21、特定健診・特定保健指導、健康寿命、高齢者医療確保法、介護保険法、地域包括ケアシステム、要介護認定、在宅ケア、ターミナルケア、終末期、尊厳死、ACP | 第 1～5 次国民健康づくり対策の取り組みを理解しましょう。近年は、メタボリックシンドロームの理解が広まったように、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなども、その周知と対策実践が望まれています。<br>超高齢社会と言われる現代において、保険制度を維持しつつ、その医療・介護サービスを適切に提供するための方法を理解しましょう。また、終末期のあり方や尊厳を保ちながら死を迎えることについて、自分自身や家族のこととして考えてみてください。 |
| 13 | 災害と健康（第 16 章） | 災害の定義と分類、各種法律、防災や発災時の体制を理解した上で、災害がもたらす健康への直接的・間接的影響やその対策を学びます。<br><br>キーワード：災害対策基本法、DMAT、トリアージ、災害弱者、災害ロジスティックス、災害サイクル、エコノミークラス症候群 | 各地で頻発する災害に備え、発災時には適切な対応ができることが求められます。経験や教訓を生かすことや、平時に取り組むべきことも考えてみてください。 |
| 14 | 地域保健行政、保健と福祉（第 17・18 章） | 地域保健の概念と法制度、現代社会が抱える健康課題について学びます。また、福祉の基本概念や自立支援などを学びます。さらに、児童虐待とその対応について理解します。<br><br>キーワード：地域保健法、健康増進法、生活保護、多文化共生、ICF、ノーマライゼーション、地域共生、成年後見制度、障害者雇用納付金制度、特別支援教育、児童虐待、ネグレクト、社会的養護 | 地域保健は、行政機関の職員や関係する保健医療福祉の専門職の守備範囲ですが、地域の健康を実現するためには、住民の意識の醸成も大切であり、単に体制ができただけでは実現しません。子どもやお年寄り、障害者、生活が困窮している人たち、へき地に住む人たち、外国人などとの共生社会を実現するための理解を深めてください。<br>また、障害者の自立支援や、児童虐待についても理解を深めてください。 |
| 15 | 医療制度と医療政策、国際保健（第 19・20 章） | 日本の医療制度の仕組みと課題を学びます。また、国際的な保健医療協力の枠組みや取り組みを学びます。<br><br>キーワード： 病院・診療所、医療法、医療計画、病床区分、5 疾病 5 事業、国民皆保険、公費医療、南北問題、BHN、SDGs、WHO、ユニセフ、ODA、NGO・NPO | 医療制度は国によって大きく異なっています。日本の医療制度は、多くの人たちの健康で文化的な生活の実現に貢献してきましたが、高齢化の影響を大きく受けて、その制度を修正し、整備しつつ今日に至っています。<br>国際保健において、日本は他国を支える立場での貢献が求められています。国際協力の組織や仕組みを学び、私たちにできることを考えてみてください。 |

■レポート課題

| | |
|---|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 3 単位め | 次の 1）と 2）の課題について、それぞれ 1,000 字以上のレポートを作成しなさい。<br>1） 世界の人口問題に関連する統計データを引用して説明し、その課題の改善策について自分の考えを論述する。<br>2） 感染症に関連する統計データを引用して説明し、その課題の改善策について自分の考えを論述する。 |
| 4 単位め | 次の 1）と 2）の課題について、それぞれ 1,000 字以上のレポートを作成しなさい。<br>1） 社会経済的要因が個人の健康に影響することについて、それに関連する統計データを引用して説明し、その課題の改善策について自分の考えを論述する。<br>2） 各種保健制度（母子保健・学校保健・産業保健・精神保健・地域保健）の中から 1 つを選択して、その制度の現在に至る歴史的変遷を概説した上で、これから望まれる改善策について自分の考えを論述する。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

【注意】

- レポート用紙の「課題」記載欄には「2026 年度の課題に解答」と記載、「解答欄」には番号と問題を記入してから、解答してください。
- レポートには指定教科書および指定参考図書以外の図表や、自作した図表を埋め込んだり貼り付けてもいいです。（指定教科書や指定参考書から図表を引用する場合は、ページ数と図表番号を文中に記載するだけでも構いません。）引用したものは必ず文献を明示してください。なお、図表はレポートの字数に含めません。

■アドバイス

臨床医が個人の健康を扱うのに対し、公衆衛生学では地域社会や世界全体など、人々の集合的な健康を対象にしています。すなわち、事実を把握すること（研究）によって得られた知識（エビデンス）を用いて、様々な健康に関わる政策が作られ、たくさんの人たちの命が守られています。現代はメディアや SNS の発達により、保健・医療・福祉の分野でも情報が溢れています。そこで、情報を正しく得て正しく理解するために、公衆衛生学の知識や考え方はとても大切になります。学修を通して理解を深め、レポート作成を通して、その知識と技術を社会生活に活用する素養を身につけてください。

【1・2 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【3 単位めアドバイス】

レポートの作成にあたっては、まず構成をよく考えて、論理的に書くことが大切です。

序論・本論・結論などや、段落や接続詞を意識して書くように心がけてください。また、必ず引用を明示してください。図表を示す際は、【注意】を参照してください。教科書以外のデータを利用して論述する場合でも、本科目を通して学んだことが表現されるように意識してください。特に、自分の考えが個人の経験に基づくものではなく、疫学的データに基づいて導き出したものであることが大切です。そして、改善策を述べる上では、先駆的な取り組み事例などを調べて引用すると、具体性があり説得力のあるレポートになります。

【4 単位めアドバイス】

レポートの作成にあたっては、まず構成をよく考えて、論理的に書くことが大切です。

序論・本論・結論などや、段落や接続詞を意識して書くように心がけてください。また、必ず引用を明示してください。図表を示す際は、【注意】を参照してください。教科書以外のデータを利用して論述する場合でも、本科目を通して学んだことが表現されるように意識してください。特に、自分の考えが個人の経験に基づくものではなく、疫学的データに基づいて導き出したものであることが大切です。そして、改善策を述べる上では、先駆的な取り組み事例などを調べて引用すると、具体性があり説得力のあるレポートになります。

## 科目修了試験

**■評価基準**

１ ）疫学・公衆衛生学に関わる知識や研究方法が身についている。

２ ）テキストを通して学んだ知識が身についており、その内容がレポートの中で表現されている。

３ ）公衆衛生上の課題を挙げて、その改善に向けた提言を述べることができる。